

『ゴルフとは、自らを自らで励ますこと。』



バリューゴルフ  
**VALUE GOLF**  
www.valuegolf.co.jp

## 天皇家とスポーツ

天皇家のスポーツといえば、テニスが有名だが、実はゴルフとも深い縁がある。天皇陛下が皇太子様だった時代に、皇后陛下、美智子様と出会ったのが、軽井沢のテニスコートであった。若いお二人がテニスを楽しまれるお姿は、よくTVで流されている。一方で、ゴルフに関する映像は、おそらく放映されたことがないのではなからうか。大正6年8月の東京朝日新聞に、当時、16歳の昭和天皇が宮ノ下の御用邸（現在の富士屋ホテル別館）から仙石原のゴルフコースでコースデビューを果たした、とある。この年の春から、弟の秩父宮と高松宮の三人の皇子が、おそらく国際人の教養としてゴルフをはじめ、新宿御苑と赤坂御所にコースを作り、練習を始めたとの記事もある。新宿御苑には、芝生に150から300ヤードのコースが作られたという。皇子がやがて欧米を訪問し、各地の王族と交際するのにも、もっとも適した遊戯だ、と当時の宮内庁の西園寺氏が指導をしたらしい。なぜかという、ゴルフは野球やサッカーのように危険を伴わず、敵を倒すという勝負とは異なるスポーツ。つまり、ゴルフは、自らの技術を練習し、精神を鍛え、何ものにも動じないメンタルを養育するからと西園寺氏は述べたそうだ。

第二次世界大戦で、戦況が悪化し、次々とゴルフ場は畑になり、ゴルフリンクスもあつた皇居内の吹上御苑には防空壕が作られた。今は草が生い茂っている」と聞いている。私もたまにプレーする東京ゴルフ倶楽部などは昭和天皇の次男の常陸宮ご夫婦がよくプレーをする場所である。戦後、ゴルフビジネスとして、ある意味、商業路線を辿ってきたが、そのためにゲーム化し、勝敗を前提としたトーナメントが開催されているが、その基本はやはり個人が自身を厳しく管理をする、そして自我を自賛する、ゴルフの精神は世界のどのトッププレーヤーにも脈々と宿っている。

5月に我が国は新しい元号となる。それを機会に、天皇家のモチベーションともなった教養という観点からもゴルフをもう一度評価していただきたいと考えている。子供の頃から教養としてゴルフを身につけ、自らの能力を高めることは、人生の幸福の素材となり、また豊かな思い出を作る。



戸張 捷 Sho Tobaru

1945年、東京生まれ。高校からゴルフを始め、3年で全日本ジュニア3位、大学4年で日本アマ9位。住友ゴム工業（現SRIスポーツ）に入社後、株式会社ダンロップスポーツエンタープライズへ出向。トーナメントディレクター、プロデューサーとして日本ゴルフ界に貢献した。現在は、ゴルフキャスターとして活躍するほか、ゴルフトーナメントやイベントのプロデュース、コンサルティングなども手掛けている。